

氏名(本籍)	M. R. ナラヤナ (インド)		
学位の種類	学術博士		
学位記番号	博甲第507号		
学位授与年月日	昭和63年3月25日		
学位授与の要件	学位規則第5条第1項該当		
審査研究科	社会工学研究科		
学位論文題目	INTER-REGIONAL POPULATION ALLOCATION UNDER COSTLY MIGRATION: THEORY AND EMPIRICAL ANALYSIS		
主査	筑波大学教授	工学博士	谷村秀彦
副査	筑波大学教授	経済学博士	坂下昇
副査	筑波大学教授	Ph.D.博士	太田誠
副査	筑波大学教授	Ph.D.博士	宮尾尊弘
副査	筑波大学助教授	Ph.D.博士	金本良嗣

論文の要旨

この論文は、地域間人口移動に関する理論的な分析とインドのデータを用いた実証的分析とを行なっている。最初の理論的分析では、地域間人口配分の標準的モデルに移動費用（引越しに伴う金銭的、社会的および心理的費用）を導入し、効率的な人口配分のための条件を導いている。

第一の部分では、まず、全ての家計の移住費用が同じである場合を分析し、この場合には移住費用が存在しない場合と同じ結論が得られることを示した。つまり、一人当たりの税金支払い額が全ての地域で等しくなるように中央政府が各地域への補助金を決めることによって効率的な人口配分が達成される。次に、移動費用が家計によって異なる場合を分析している。この場合には、上の結論はそのままでは成立せず、効率的な人口配分の条件である一人当たりの税金支払い額の式に限界的家計にとっての移動費用の変化分が含まれることになる。

第二の部分は、インドの人口移動データを用いて人口移動の決定要因に関する実証研究を行なっている。この部分の重要な貢献は以下の三点である。第一に、これまでの研究ではまとめて扱っていた人口を勤労者と非勤労者の二つのタイプに分け、それぞれのタイプについて別々に人口移動関数を推定している。両者を集計して推定した場合は統計的に有意な相違が存在することを Chow 検定と Honda 検定を行なうことによって示しているため、これらの二つのタイプを区別することは重要な意味を持つ。第二に、これまでの研究では単純な最小自乗法が用いられていたが、heteroscedasticity の問題が存在するので weighted least square の手法を用いて推定した。これによって、

これまでの研究より精度の高い推定値を得ている。第三に、地方税や中央政府への補助金などの政策変数を人口移動の説明変数に加えた。これらの変数の推定値は有意であり、政府による補助政策が人口移動に有意な影響をもたらすことが示された。

第三の部分では、人口移動関数の推定結果を用いて、政府の補助政策を変更する効果の政策シミュレーションを行なっている。例えば、現在の政策を理論分析の部分で得られた効率的人口配分の条件を満たすように変えることの分析や、人口移動費用の削減の効果などが定量的に分析されている。この部分の分析は、人口配分政策の検討のための基礎資料として有益である。

審 査 の 要 旨

上述のように、この論文は地域間人口移動に関する学問的に高度で独創性を持つ研究であり、また、その研究成果は大きな政策的含意を持っている。理論的分析の部分は既存のモデルを移住費用を含むように拡張したに過ぎず、理論的には大きなオリジナリティーを持つものではないが、現実には移動費用は重要な問題であり、既存の分析を一步現実に近付けたことは有益な貢献である。以上により、本論文の成果は全体として博士論文の基準を満たしていると判断し、最終判定は合格とすることで一致した。

よって著者は、学術博士の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。